

Title	キャバクラ業界から分析する成果主義採用企業への提言
Sub Title	
Author	関根, 英朝(Sekine, Hidetomo) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2442号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2442">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2442</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	小幡 績 研究会	学籍番号	80830633	氏 名	関根 英朝
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">キャバクラ業界から分析する成果主義採用企業への提言</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本研究では、完全個人売上に基づく成果主義であるキャバクラ業界に着目し、業界の中で成功している、キャバ嬢や店舗経営者の行動や運営を分析する。更に業界のメカニズムにも触れる。その結果を基に成果主義または成果主義採用を検討している日本の企業や業界に対し提言を行う。</p> <p>キャバクラ業界では現在、求人求職の割合が大きな変化を迎えており、これは市場成熟化、経済不況における店舗減少に対し、若年層のなりたい職業ランキングの上位にキャバクラ嬢が挙げられるなど、キャバクラで働きたいと考える求職の割合が増加している。その理由の一つにドキュメンタリー番組やドラマ、映画等題材としてキャバクラが扱われる事が多くなった事が挙げられる。この求職・求人割合の格差はキャバクラ業界のみならず、日本全体で起きている現象であり、類似している。さらに、厚生労働省の統計から、日本企業はここ数年で給与体系に成果主義を導入する傾向が増加しており、完全個人の売上歩合による給与体系を採用しているキャバクラ業界を研究することが、以上の2点から日本社会や企業に対し提言することを本研究の目的とした。</p> <p>本研究は、1.キャバクラとキャバクラ業界の定義、2.キャバクラ業界の成果主義賃金制度、3.キャバクラ業界紹介、4.仮設・検証 5.考察の手順で進める。</p> <p>本研究の重要なポイントは、キャバクラ業界の様な究極の個人成果主義の労働環境であっても、個人の売上に注力するのではなく同僚との協力や連携に関係を築いたり、同僚と情報交換を行ったりする様な人材の方が成功しているという点だ。</p> <p>これはアンケートとインタビューに基づく回答から、アンケートについては統計結果と統計解析から仮説を検証しており、さらにインタビューで補完している。</p> <p>これらの結果からさらにもう一つ重要となったポイントは連携や協力を築いているのが、お店の売上を引っ張るリーダー的なキャストが、積極的な人間関係を構築している事がわかった。</p> <p>最後に、キャバクラ業界では店舗間の競争が激しい事から成果主義を採用していると考えられ、今後日本の各業界で採用が増える可能性が高い。キャバクラ業界は各店舗間での競争は激しいが、そこで働くキャスト達の店舗移動については自由度が高く、場合によっては本人に合った店舗を紹介するケースもあった。この仕組みは、リーダー的キャスト達が協調・協力関係を築いている事から成立し、多くのキャスト達が自分にあった店舗で働くことができるし、各店舗の経営者はそのリーダー発掘・育成こそが経営のポイントになっているという事が示唆された。</p>					